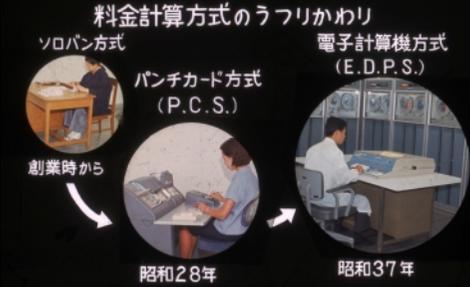
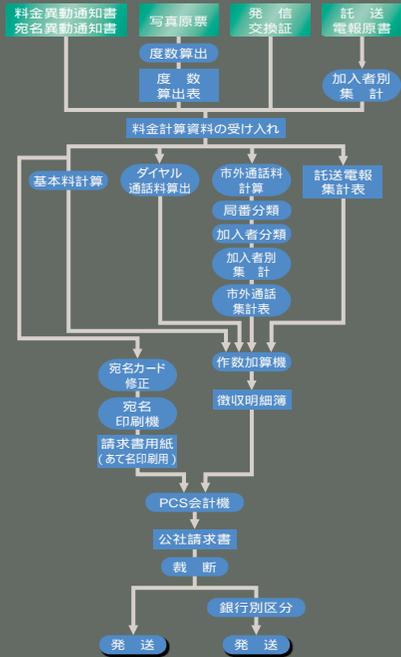


料金業務のフロー

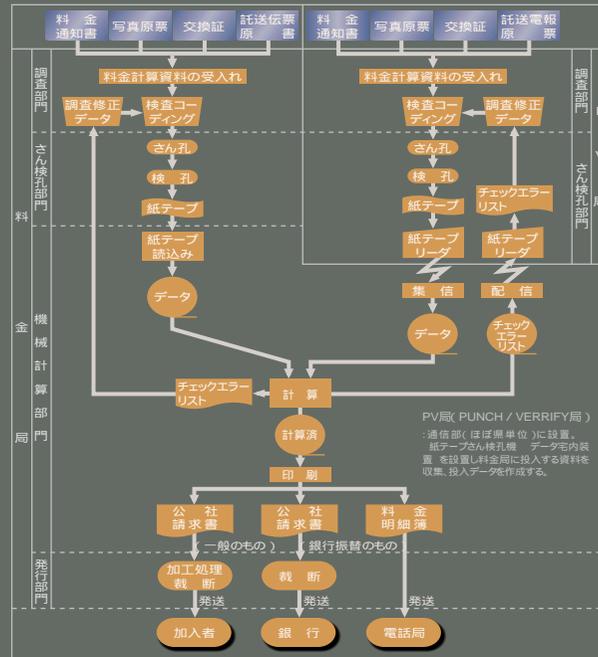
Flow of billing system



手作業による作業工程



電算化局の作業工程



自動通話の料金計算のフロー



課金システムの変遷

Transition of billing systems

市内均一料金時代の自動交換機による通話への課金は、通話回数を度数計でカウントすれば良かったが、自動市外通話が行われるようになると、市外料金積算へ対応するためさまざまな課金方式が研究された。最終的には既存のシステムを有効活用できるK課金方式(距離別時間差方式)が1962年に採用された。

通話状況を磁気テープに記録、計算センターで処理するCAMA方式は当時としては極めて先進的な方法であり、10年にわたる試用試験も実施されたが実用化はされなかった。しかし、CAMA方式で培われた技術はDIPSへと受け継がれた。

